

## 令和元年度 第1回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会 議事録

- |       |  |
|-------|--|
| ■日    | 時：令和元年5月13日（月）18:15～19:30                    |
| ■場    | 所：武蔵野市役所西棟4階411会議室                           |
| ■出席委員 | ：8名（宮武、鷺川、鈴木、澁谷、川鍋、飯田、村田、森安）<br>欠席1名（熊田）※敬称略 |
| ■事務局  | ：高齢者支援課、武蔵野市民社会福祉協議会                         |

### 1 開会

委員長互選のため、高齢者支援課長が進行。

### 2 配付資料確認

事務局より配付資料の説明。

### 3 新任委員自己紹介及び事務局異動紹介

飯田 純子（すみこ）委員が新任のため、自己紹介。

### 4 委員長互選及び副委員長指名

村田委員の推薦により、全会一致で宮武委員が委員長に就任。

これより委員長が議事進行。

委員長指名により、澁谷委員が副委員長に就任。

### 5 議事

#### (1)平成30年度運営実績報告

高齢者支援課長より補助金収支について説明。

武蔵野市民社会福祉協議会事務局より運営支援内容について説明。

以下、質疑応答

【委員】利用者は1日平均15～20名が1つの目標となっていたと思うが、川路さんちやふらっと・きたまちは10名前後になっており、スタッフのキャパシティの問題なのか、周知の問題なのか、対象となる利用者が少ないのか、どういう状況か伺いたい。

光熱水費に関して、そ～らの家は光熱費が大きい。ソーラーパネル自体の熱効率が悪く、防災面から考えてもソーラーパネル自体を新しいものにしたほうがよいのではないか。ソーラーパネルで電気を賄えるような形のモデルとして考えていかないと、今後災害が起きたときの拠点とはなり得ないのではないか。テンミリオンハウスと災害時拠点としての2つの側面を備えているにも関わらず厳しい状況ではないか。

【事務局】利用者平均については、午前に10名来て、午後10名が来て入れ替わりがあると1日平均20名になるが、川路さんちの利用者は1日のうち長くいらっしやる方が多いので、平均が10名程度になっている。スペース的にも非常に狭いので、なかなか利用者を増やすのが難しいという話もあったが、昨年度囲碁（五目並べ）をやりたいという新規の利用者が増え、奥のスペースを整理し、4～5名で囲碁をできるようにしたところ、利用者数が増えている。部屋のスペースの工夫と1日ゆっくり過ごしている方にもそのまま利用していただきたいが、一方で、新規の方の受入れをどうするかが課題である。

ふらっと・きたまちはスペースが広くなく、太極拳や自立生活体操等の身体を動かすプログラムは人数が限られてしまっていることがスタッフ間でも課題となっている。身体を動かさないプログラムでも多くの方に来てもらう工夫、吉祥寺北町五丁目の近隣の方にも来てもらう工夫が必要。現利用者が新しい友達を紹介するとデザートがもらえる「ペアウィーク」等を実施して地域の方に来てもらう工夫はしている。

そ～らの家は平成12年建設であり、当初はソーラーパネルを利用して、できるだけ環境負荷を減らして、隣に防災公園もあるので、防災機能も付加した施設ではあるが、施設自体も経年劣化してきている。全ての電力をソーラーパネルで賄う造りには元々なっていない。一部売電をしており、普通の電気料金を下げるようにはしているが、テンミリオンハウスの中で一番大きい施設であり、入浴サービスも実施しているため、実情としては厳しい。ただし、ソーラーパネルを備えているという点での支援やフォローを行っていきたいと考えている。

【委員】川路さんちとふらっと・きたまちは施設規模が一番小さい。そもそものスペースのキャパシティが厳しい。当初テンミリオンハウス事業を始めたときの目算では10名程度であったため、川路さんちでは多様なプログラムを組むのではなく、利用者がゆっくり過ごしているため、利用者数が増えていない。また、ふらっと・きたまちは自宅の改築に合わせて1階部分を寄付していただき、面積の制約がある中でやっている。

そ～らの家は当初唯一新築したテンミリオンハウスである。ソーラーパネルだけではなくOMソーラーハウスという屋根で蓄熱をして冬は床暖房にし、夏は換気を良くするという、建物全体で省エネ化を図っていたが、建物自体が広く、入浴サービスも実施しているので、光熱水費がかかるといった経緯もあり、光熱水費補助金をこの度新設した。ただし、大規模修繕をすることとなれば、建物の形態上どれだけのソーラーパネルを積めるのかをいう検討をしていく必要はある。

【委員】最近ではガスで電気を作るというものもあるが、防災面を考えるとあれば、それとマッチした形のものを計画していかないといけない。有事の際に電気・ガス・水道が使えなければ意味がない。市全体の防災計画として考えれば大事な

拠点である。周辺の方たちへの安心感もアピールできる。

【委員】 テンミリオンハウスは、福祉避難所の指定はされておらず、そこで寝泊りをするということは想定をしていないが、有事の際には人が集まるので、地域の方と協力して防災公園で防災訓練も実施している。地域の方の声にも応えられるようにしていかなければならない。

【委員】 売電より蓄電のほうがいいのでは。

【事務局】 ソーラーパネル自体が大きいものではないので、売電も光熱水費の1割にも満たない。

【委員】 関三倶楽部とふらっと・きたまちの繰越金が100万円以上あるのはなぜか。ふらっと・きたまちはもっと有効な補助金の活用方法があるのではないか。

【事務局】 関三倶楽部は利用者が減ってきており、それに伴う利用料の減少と人件費の関係で、昨年度よりも収支に差が出てきている。公共交通機関で来られる場所ではなく、利用者も公共交通機関を使用することが難しい方が多い。送迎サービスはないので、レモンキャブやご家族の送迎が必要となっている。利用料を勘案すると、送迎サービスのある施設に利用者が流れていること、また、長く利用されていた方が施設に入ったり、お亡くなりになったりしていることで、利用料の減少は昨年度より顕著に出てきている状況である。

ふらっと・きたまちは他の施設に比べて、諸手当等の人件費を削減している。また、食事代が400円に対し、食材費が350円前後で押さえられていることが収入・支出共に抑えられている。必要な物品や修繕は行っているが、それでも余っている状況である。

【委員】 ふらっと・きたまちは、予算を立てる際に人件費を厚く見積もったほうがよいのではないか。買い物に行く方が無償で行っているように感じる。

関三倶楽部は収入よりも経費がかなり減っているが、大丈夫なのか。

【事務局】 経費は工夫して減っているところもある。関三倶楽部はリフォームをして、照明をLED化したため、電気代が削減できている。人件費については、利用者の減少に伴いショートステイがない日もあると聞いている。月末になるとショートステイの利用はほとんどない状況なので、経費としては削減の傾向にある。

【事務局】 関三倶楽部については、平成29年度と平成30年度を比較すると、デイサービスについては延べ利用者数が105人減、ショートステイについては延べ利用者数が35人減。人件費については、平成29年度は10,995,774円に対し、平成30年度は9,337,635円で、差額は1,658,139円で減となっているが、デイサービスとショートステイの利用者が減っているということで人件費が発生しないということになっている。

【委員】 スタッフの人件費はそれぞれの施設で判断しているということではよいか。

【事務局】 市で一律に決める規定はなく、運営団体が自主的に決め、それに対して

市が補助をしている。基本的にはそれぞれの自主事業という形をとってもらっている。市からは、目安として最低賃金は守っていただくようお願いをしている。

**【委員】** ふらっと・きたまちは、10月からスタッフ賃金を上げている。また、年末慰労金を支払っており、他の施設はそのようなことをやっていないが、それぞれの判断でよいのか。

**【事務局】** 10月に上がっているのは、最低賃金が変わる時期に合わせている。その他の施設は4月に上げているところもあるので、タイミングについても団体の判断になっている。手当についても、市でも中身は確認しているが、基本的には団体の規定や規約、定款等の中で決めてもらっている。

**【委員】** ふらっと・きたまちは、二重窓を取り付けたとのことだが、騒音対策なのか。看板を出すことに対してもクレームがつくのか。近くになかなか知ってもらえないとのことだが、ポスティング等を行っているのか。

**【事務局】** 歌のプログラムをやりたいという利用者の希望があり、二重窓は近隣の騒音対策である。キーボードを買い、プログラムを行っており、最初はスタッフが外に出てどれくらいの音量になっているのかの確認をしながら実施していた。特に問題はなかったが、マンドリンは響いて聞こえていたとのことで、注意をしながら、歌や音の出るプログラムを徐々に始めている。

「ふらっと・きたまちニュースという広報誌」を毎月1回発行しており、翌月のカレンダーやスタッフのコメント、先月こんなことをあった等を掲載し、吉祥寺北町4・5丁目全域、3丁目一部に配付している。

**【事務局】** 看板については、住宅街にあるテンミリオンハウスが多いので、周知するにしても、市も団体も苦慮している。ニュースに入れたり、ポスティングをしたりということで案内をしている。利用者の利便性を考えた結果、昨年度団体と一緒に近隣に挨拶に伺い、北側の上水側と南側入口のところに目立つ看板を設置した。

**【委員】** ふらっと・きたまちはどこを曲がっていいのかわからない。自分も施設に訪問する際に実際に迷ってしまった。看板があるといい。

また、人件費や食事が400円というところは、団体の考えとして、助け合いを大事にしたいという意向なのか。事務局で何か気づいた点があったら教えてほしい。

**【事務局】** 運営団体の大野田福祉の会は、当初から助け合いやご近所同士が繋がるといふところを大事にしていきたいという意向があり、最初の段階では人件費も一切貰わずに運営しようという話もあったくらいで、ボランティア活動としてこういった場所を通じ、ご近所同士が繋がる仕組みを作っていきたいという考えがある。年末慰労金も、話し合いの上でスタッフ一律で年1回貰うということを決めている。ただし、それ以外の広報誌作成手当や施設長手当等は無しにすると、

話し合いで決めている。

【委員】 テンミリオンハウスの経費のかかり方については、二極化していると思う点があり、くるみの木は光熱水費補助をしても赤字、月見路も赤字である。くるみの木の翌年度繰越金は 32,000 円しかない。くるみの木はいろんなプログラムを実施し、使用料や参加費も貰いつつトータル予算が大きいテンミリオンハウスの 1 つではあるが、1,000 万円の補助の中での継続の工夫というのを市や市民社協がアドバイスをしてほしい。月見路も経費が増えてきているので、そこについてもアドバイスや支援をしてほしい。

一方で、ふらっと・きたまち等はあまりお金を使わないで運営をしているが、1,000 万円全て使うわけではなく、必要な範囲内で運営してもらえればと思うが、そういった場合「テンミリオンなのに」と指摘される可能性もあるので、そこは説明ができるようにしておいてほしい。

【委員】 関三倶楽部は他の施設と形態が違うのは理解しているが、他の施設は在宅介護・地域包括支援センターと年 2 回以上のケース検討や意見交換を実施している一方、関三倶楽部は実施していないため加算がついていない。イベント等を実施しても加算はつくが、関三倶楽部は極めて少ない。会議にも参加して、他の施設がどんなことをやっているのかとか、工夫していることも把握してはいるだろうが、これらのことは、運営団体はあまり気にしてはいないのか。

【事務局】 スタッフ自身がケアマネや介護福祉士の資格を持っている方が多いので、在宅介護・地域包括支援センターと情報交換をしなくても、自身が知識を兼ね備えているので対応できている。また、利用者が必ずしも地元の方ではないことが多い。関前の利用者はほとんどいない。在宅介護・地域包括支援センターのエリアが違うため、利用者の情報を持っていない。情報交換会は年 1 回程度で良いのではとスタッフは考えている。

イベントは利用者が地元ではないにしろ、その地域に根付いているテンミリオンハウスとして、関前の人との交流はしていきたい。年に 1、2 回「Let's try」という、利用者と地元の方との交流を実施している。ただし、日常となると寝たきりの利用者も多くいるので、毎日健常の利用者が来てもお互いに遠慮してしまったり、介助にあたって臭いが気になってしまうということをスタッフが気にしたりしている部分もある。回数が少ないところはあるが、地元の方との交流をしていきたいという気持ちがスタッフにはあるので、話し合いによっては今後増える可能性もある。

【事務局】 今年度より公募があった翌年に調弁費補助金を用意した。備品等が老朽化しているとの話もあり、その補助の中で買い替えをしてもらっている。くるみの木については、更新団体なので 40 万円（新規だと 100 万円）で今年度その補助金の中で買い替えを行ってもらおう。1,000 万円という縛りはあるが、必要なも

のについては、市でも支援をしていきたい。

また、ランチの費用についても、価格設定は400～600円ではあるが、それぞれのテンミリオンハウスの特色でもある。また、講座があったり、ゆっくり過ごせるだったり、運営団体の中で考えてやってもらっているのも、必要に応じて市は支援をしていく立場でやっていきたい。

情報共有については、今年度テンミリオンハウス事業20周年ということで、記念事業を実施したいと考えている。市だけではなく、運営団体と一緒に実施したいと考えているので、各団体からメンバーを出してもらい、歴史を振り返りつつ、いろんな情報共有の場として検討していきたい。

平成30年3月に各運営団体から「自分たちのテンミリオンハウスの歴史を知らない」というスタッフが増えているという話があり、歴史を語る会をやってほしいとの要望があった。当時健康福祉部長であった笹井のほうから講話をし、交流を図った。そういったことから市、社協、各運営団体で20周年記念事業をやっていきたいと考えている。

【委員】 いつやるのか。

【事務局】 平成11年11月に第1号館となる川路さんちが開所となり、今年度20周年を迎える。記念式典については、現段階では12月1日(土)で予定している。具体的な事業内容については、改めて報告する。

【委員】 ふらっと・きたまちの利用者は周辺の方はあまりおらず、きんもくせいも遠くから来る方が多いと聞いているが、利用者がどのような動きでテンミリオンハウスを利用しているかという調査もやってほしい。人の流れやプログラム内容でそのテンミリオンハウスに行っているのか等、なぜそこに行くのかというモチベーションがある程度わかると今後の参考になるのでは。遠くまでに通うのは、本来の構想からはかけ離れている。近場に通り、いつまでも元気でいてほしい、顔が見えるということであれば、20年という節目でアンケートを取るのもできるのでは。今後の構想にもつながるのでは。

【委員】 きんもくせいに通う利用者は、健康麻雀が無料であるため。遠くから通う方もいるが、プログラムの立て方等も利用者は情報を持っている。ただし、基本的には近隣に住んでいる人である。ふらっと・きたまちの言っている「ご近所」とは「通りに面している方々」であり、そういった方がなかなか来づらいというものはあるが、1本隣の通りからは人が来ているので、基本的には近隣の方に利用してもらっている。プログラム内容によって様々な方の利用があると考えている。

- (2) 令和元年度現場視察について  
事務局より説明。

5 閉会

以上